

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500184		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	グループホームなごみ苑		
所在地	三重県津市豊が丘2丁目4番5号		
自己評価作成日	平成27年11月28日	評価結果市町提出日	平成28年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490500184-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 1 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大型団地のほぼ中央に位置し、公園、スーパー、医院など施設が揃っているため、散歩の時など地域住民の方々と挨拶を交わしたりする機会も多く、自治会行事への参加(夏祭り・防災訓練等)また近隣の保育園の行事にも参加するなど外部の方々との交流に力を入れている。小規模な施設ではあるが、その分職員同士意思疎通も行き届いており、利用者様に対する気配りもできており、天気の良い時間時季には散歩・外気浴など支援し、アットホームなグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな団地の一角にあり、一般住宅を増改築した2階建ての事業所である。玄関を入ってすぐにホールがあり、こじんまりとした中にも、鉢植えや季節の花が飾ってあったり、壁面には利用者と職員とで季節の折り紙や塗り絵などを飾ったり、昼食後には利用者と職員が和やかに話しながら洗濯物をたたんだりして小規模ながら温かい雰囲気を感じられる。職員は、利用者とのスキンシップを大切にゆったりかかわり、一人で無理をせずチームワークでのケアを心がけている。また、地域の一員として自治会に加入し、いろいろな行事に積極的に参加し地域の方との交流を図るとともに、運営推進会議で得た情報を運営に生かした取り組みをおこなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は運営理念の基本を周知し、朝の申し送りで唱和し実現に向け取り組んでいる。	法人の理念のほかに、事業所独自の運営理念「利用者の生き方、人格を尊重して更なる成熟に向けて暖かく見守る」などの3つをあげ、朝夕の申し送りのときに唱和している。特に利用者の人格を尊重し尊厳を損ねないような態度や言葉使いに配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(夏祭り・公園の草刈り・防災訓練など)には積極的に参加しており、住宅地内であるため散歩の時など地域住民の方々と顔を合わす機会も多く積極的に挨拶を交わしている。	自治会に加入し、夏祭りや防災訓練には利用者と一緒に参加している。保育園との交流や中学生の職場訪問もあり、運動会や発表会などに招待してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事に参加することにより当事業所の存在をアピールし理解して頂くとともに培ってきた支援のノウハウを伝えていこうとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の自治会長、民生委員、津市介護保険担当職員、北地域包括支援センターなどの参加で2ヶ月に1回地域との交流や当事業所の現況や困り事など幅広く意見交換している。	2ヶ月に1回開催し、地区の自治会長など毎回7名の参加があり、事業所の現状を報告したり、地域の行事を聞いたりして活発な意見交換がなされている。会議の中で、地域のふれあいバスの情報を聞き活用したり、保健師からノロウイルス予防の話の聞いたりして有意義な会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当事業所の代表が日頃から市町村担当者に出向き意見交換や相談の助言などを受け、その都度連携をとっている。	事業運営についての行政との関わりは、主として法人の代表が行っている。利用者に関することがあれば、家族に連絡し家族が対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみであり、夏場では昼間は片方のみ開放している。 現在身体拘束は行っていない。	毎日のかかわりの中で、言葉による拘束に気をつけ、気づいたときに互いに注意するようにしている。また、毎月の会議に身体拘束をしないケアについて議題にして話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在までに虐待は無い。月1回の職員会議にて確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明のもと、理解と納得を得て頂いた上で契約を交わしている。解約要請については快く受理している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口を設け、苦情には速やかに対処できる体制を敷いている。 玄関には意見箱を設置しているが意見は現在ない。	面会のときや、電話で様子を伝えるときに積極的に意見を求めるようにしている。また、3ヶ月に1回通信を発行し、全体の姿を知らせると共に各個人の様子も知らせるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて意見や提案などしっかり話し合う場を設けている。それ以外にも勤務者と管理者とで話し合う機会を設けている。またケア等の改善策は迅速に連絡帳に記入し、全職員に周知し、実践している。	毎月の会議の議題や内容は、職員が順番で提案して話し合いのもと実践し、記録も毎回整理し次年度へ生かすようにしている。折に触れ、管理者と職員は意思の疎通をはかっている。機会があれば外部研修に順に参加し、資質の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は各職員より勤務報告を受け把握している。勤務においては希望日時をなるべく取り入れる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議にて経験豊富な職員と共に施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区近郊にあるグループホームと交流を深め意見交換している。運営推進会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には管理者と計画作成者が共に実調に出向き家族、本人と十分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の時及び入居間近の頃、家族と相談し合うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援に必要な事柄を職員間で判断し適切に対応出来るよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が寄り添いながら一緒に暮らす姿勢で支え、また安心して暮らせる場を提供出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回家族に発送している苑便りに入居者の生活状況などを書き添え、日々の生活のひとコマを写真に撮り便りに同封したり、面会時に伝える等して苑と家族が協力し支援が出来るように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が本人と共に自宅や墓参り、病院への見舞等に出かけたり親戚、友人等の来訪も多くある。	自治会の夏祭りの時などに、近所の知人と会って声をかけ合ったり、その後来所されたりする。また、家族が適宜、親戚が盆正に訪ねてきたりして、なじみの関係が途切れないように支援している。利用者の重度化で、墓参りが困難になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を考慮したり、日々の散歩にも仲の良い友達とゆっくり話し合ってお出掛けしている。ホールではさまざまな活動に参加し、手の不自由な方にはちぎり絵などして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の状況に応じて本人や家族の意向に配慮し、アフターケアに万全をつくしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に担当職員を配置し、各々の希望、意向を聞きそれを職員間で共有し、きめ細かい対応に努めている。	担当の職員が日々のかかわりのなかで聞いたことや感じたことを記録し、利用者の気持ちを全員で共有するようにしている。職員の個人的な思い込みをしないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表に基づき、本人家族、前任介護者から細部に渡って聴取し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回の申し送りで、日々のチェック表(水分補給・排泄)を活かしてまた介護日誌の記録等で情報を共有し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議にて利用者の各担当者が記入した1か月間の処遇申し送り事項・往診医療の指示を職員全員で検討し、ケアプランに生かしている。	日々気づいたことを記録に取り、他の職員も目を通すようにして、毎月全職員でモニタリングしている。ケアプランは3ヶ月に一度見直しするが、変化があればその都度見直しをしている。記録は事務室で管理しているが、よく整理され職員が誰でも見やすく、記入しやすくなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子を記録、また毎日話し合われる情報をミーティングノートに記録し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員に看護師がいるため、緊急時でも看護支援も出来ている。また普段から一人ひとりの様子を把握し臨機応変に対応している。苑庭の畑の草取り、収穫などを職員と共にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事(夏祭りなど)への参加、地域近郊にある保育園児との交流も定期的に行われ、地区の社協主催での敬老会などにも職員同行で参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者が同じクリニックにかかり、月2回の往診がある。また夜間何かあれば主治医の指示のもと、他医療機関に受診できる体制がある。	ほとんどが協力医に受診している。1名は、家族が同伴して毎月従前の主治医に通院しているが、家族から報告があり、連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に経験豊富な看護師がおり、他の職員へ適切なアドバイスがなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に連絡を取り、協力医療機関につなげている。入院時、入院中は管理者が見舞い、容態情報確認また御家族様との連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当苑で行える介護が出来る場合はチーム全体で取り組み引き受ける様にしている。利用者の家族からは終末期の同意書も1件貰っている。	利用者は毎年、市が行っている健康診断を受けているので結果をみて、協力医の指示のもと、重度化や終末期に向けて家族と相談したり、事業所としてできることを説明したり、同意を得てケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医に連絡し、適切な指示を仰ぎ看護師と共に適切な処置を講ずる事が出来る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	北消防署指導による避難訓練、水消火器による消火訓練、119番通報訓練や夜間の避難訓練、また地区の防災訓練にも参加している。	自治会主催の防災訓練が年1回と、事業所独自に年2回の避難訓練を実施している。消防署に来てもらう時には避難訓練と共に心臓マッサージや人工呼吸法など救急法の指導も受けている。また、夜間想定訓練もした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、個人情報の保護や秘密保持には充分配慮して、職員間で共有している。	人生の先輩として言葉遣いに気をつけ、呼称も苗字を「さん」づけで呼ぶようにしている。特に利用者の居室に入るときには「おじゃまします」という思いで入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室にて職員が本人の希望、要望などを聞き出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールにて皆さんと諸活動に参加されている方や居室にてゆっくり過ごされる方、お友達と仲良く話をされたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理容師の訪問でカットや顔剃りが受けられる。ひなまつり・七夕等女性には着物を着て頂き、おしゃれを楽しまれる時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から毎日届き、ひとり一人の好みに応じて盛り付け、献立を書いた表(白板)で皆さんに本日の献立を言っている。下膳では湯呑茶碗など軽い物のみ洗い場まで持ってきてもらっている。またテーブル拭きもお願いしている。	毎日の食事は届いた食材で職員が調理をしているが、誕生日は利用者の好みのもを作っている。ドライブに出た時にはレストランで外食したり、時には回転寿司に行くなどして利用者も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を確保できる様心掛け、摂取量、水分量はひとり一人記録に残している。糖尿病の方は白飯を少し減らし、コーヒーなどの飲料時は砂糖を入れず提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きをする時の一連の作業の出来ない方が多く職員が側で声掛け支援している。重度の方は職員により毎食後口腔内のケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握(チェック表を作り記入)している。リハビリパンツ、パットの使用者が増えているが、トイレで排泄が出来る様個々に誘導し、自立支援に努めている。ポータブルトイレの設置はしていない。	日中は特に、ほとんどの利用者がトイレで排泄できるよう、個々の排泄パターンをチェックし様子を見てトイレに誘導して支援している。介助時には細めにあけたドアの外で待つなど羞恥心に配慮したケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとり一人の排便状態を把握し、運動量の増加、飲料水の摂取など日常生活から見直し、自然な排便を促進し、常習便秘については主治医から適切な下剤量を処方し、排便できる様配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温度の設定(追い炊き)や湯量も個々により変え、気持ちよく入浴できる様支援している。入浴希望があれば随時支援となっている。(特に便汚染時はシャワー浴施行)	週2回、午前中に入浴を支援している。季節により、菖蒲湯やゆず湯など入浴を楽しめるようにしている。入浴希望があればその都度対応している。入浴日は男女交互にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「家庭的」を優先とし、1階フロアや居室でゆっくりと安心して快適に休息できる様支援している。眠剤の服用は現在ゼロである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や看護師から指示を受け、服薬の容量、投与時間、症状の変化なども一緒に記録している。服薬はお一人ずつ口元まで持っていき、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人に合わせて趣味や特技を楽しめる生活になるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本部の車を使って、季節に応じた行事に出掛けている。一部の利用者様は受診などの時に買い物に行かれている。	気候の良いときには事業所の周辺を散歩することもあるが、重度化で散歩が困難になっている。花見や新緑ドライブ、紅葉狩りなど季節に応じた行事を月1回実施し、利用者は生活に潤いを感じ笑顔が見られる。	利用者の状況や、職員の体制等で、個別対応が難しくなっているが、車椅子を利用するなど工夫して、日常的な外出支援が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って近郊のスーパーに同行し、品定めからレジ支払(見守り介助)など支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるのは当苑では支援している。会話が難しい方は本人がメモ書きしたものを職員が代行で本人の要望などを伝えている。ご家族様からの手紙には職員が支援し、返事を出させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中での共用空間は、ワンフロアで広いスペースを提供している。また季節感が出来る様各テーブルに花を生けてもらったり、壁面などに塗り絵・貼り絵など製作物を飾り、自分たちで完成させた喜びを分かち合っている。	一般住宅を改造した事業所で、居間・台所・風呂などが家庭の延長という感じである。1階のホールでは、奥の台所から炊事の匂いがしたり、壁面には手作りメニューや、職員と利用者で作った季節の細工物が飾って合ったり、鉢植えや季節の花が生けてありゆったりくつろげる雰囲気がある。ただ2階の居室への階段は手すりはあるが、やや急である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際には長椅子で日向ぼっこをされ、ゆっくりとお茶など飲まれている。各テーブルの椅子にてテレビを観られたり、ひとり一人が思い思いに過ごせるように工夫されている。居室にて仲の良い方を呼び談笑されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の家族の協力を得て、使い慣れた道具や思い出の物を持ち込んでひとり一人が個性を持って生活できる様工夫している。	ベッドとタンスは事業所の備品である、利用者は使い慣れた衣装ケースを持ってきたり、家族の写真絵、持参した鉢植えを飾ったりしてその方らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない方もおられる為、扉にはネームプレートが貼ってある。また洗面所やトイレにも貼紙で分かり易くしている。		